

テールアルメ工法の分割施工留意点

テールアルメの施工を、諸処の理由により、2回以上に分割して施工を行う場合（工期境を階段状にする場合）の留意点を以下に挙げる。

1. 必ず全てのストリップを取り付け、スキン際まで盛土を行うこと（図-1参照）。

スキン際の盛土を施工完了させずに放置すると、雨水がそこに集まり、水路となる。この時、人力により転圧された壁背面の盛土は雨水が浸透し易く、壁面が変位を起こす危険性がある。

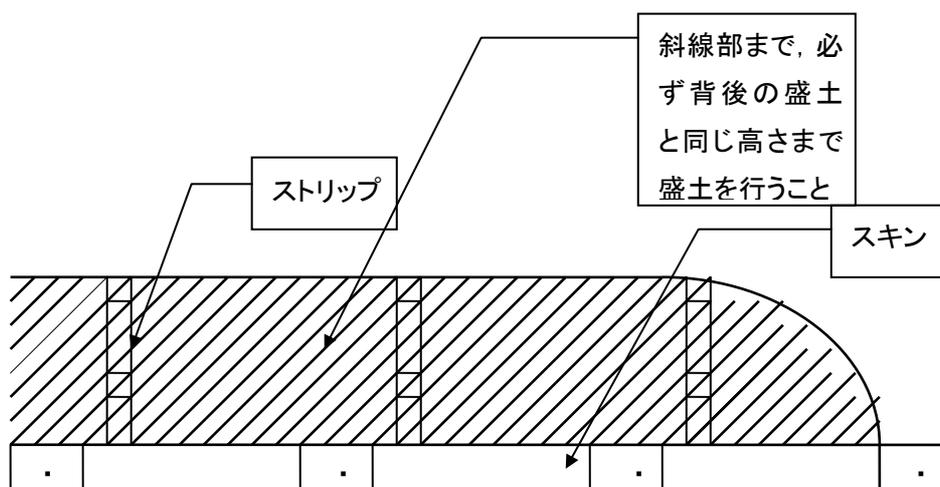


図-1 境界部の壁際の盛土

2. II期施工部との境界のストリップが十分な土被りが得られるようにII期施工方向に余盛すること（図-2参照）。

スキンにストリップを取り付けても、土被りが薄かったり、十分な転圧がなされていない場合、期待される補強効果が発揮できず、壁面の変位を招く場合がある。これを防ぐために、次期施工部との境界に敷設するストリップが、十分な土被りを得、さらに念入りの転圧が出来るだけの余盛ができるようにすること。

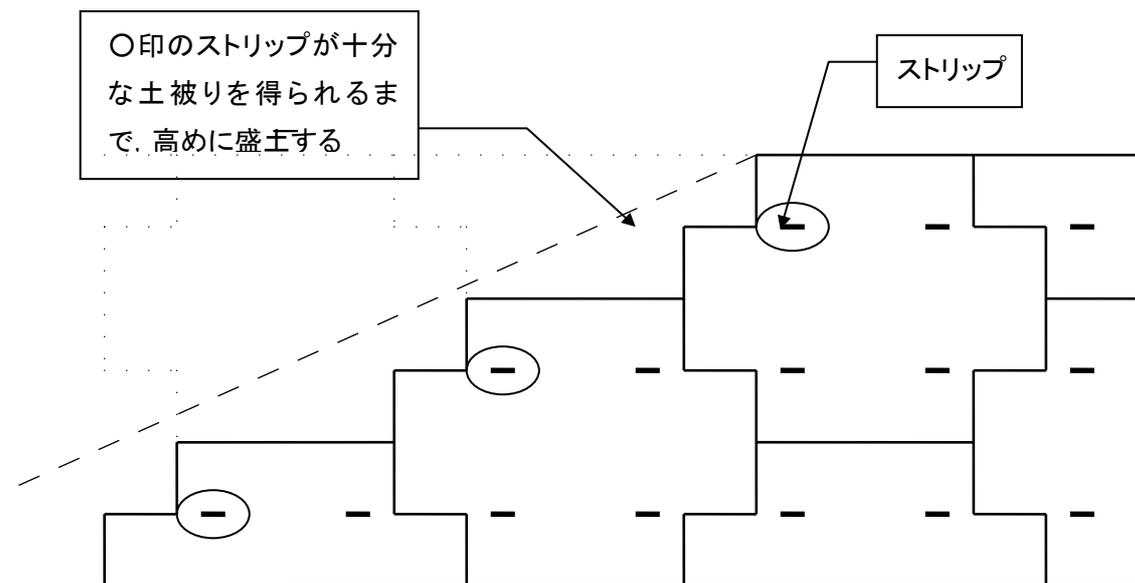


図-2 境界部の盛土高さ

3. II期施工までの間、降雨などの排水処理を十分に行うこと(図-3, 4参照)。

雨水などがテールアルメ内に浸入すると、内部摩擦角の低下と単位体積重量の増加による土圧増加、摩擦力の低下により壁面の変位がおこる。よって、II期施工までの間にこのようなことが起こらないよう、十分な排水対策が必要となる。理想としては、盛土面全面にシート養生を施す方法であるが、面積が大きく困難な場合が多いので、以下に挙げた方法を標準とする。

- 1) 盛土表面を念入りに締固める。
- 2) 盛土面に壁面の反対側に向かって排水勾配(5.0%程度)を設ける(図-3)。
- 3) 切り盛り境に素掘りの排水溝を設け、縦排水用の暗渠集排水材に導く(図-4)。

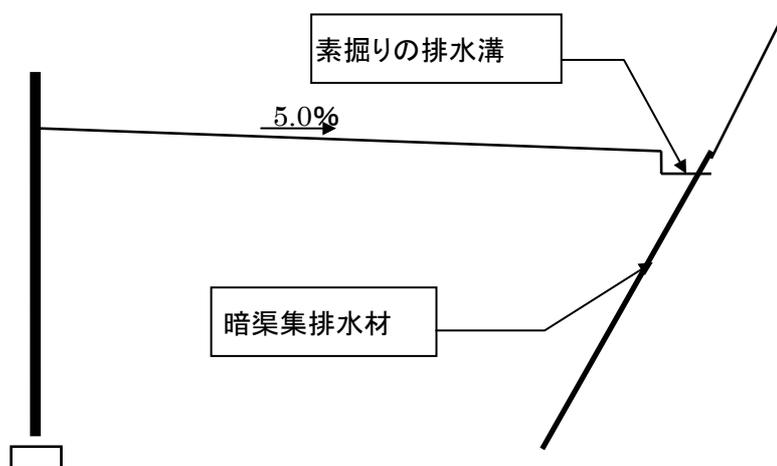


図-3 II期施工までの排水処理(その1)

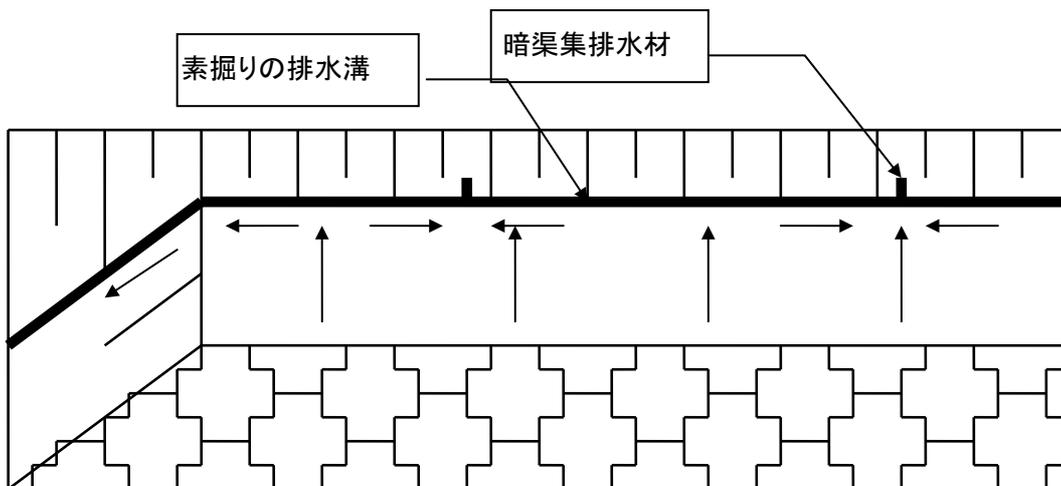


図-4 II期施工までの排水処理(その2)

4. II期施工における注意点。

II期施工における注意点を以下に挙げる。

- 1) I期施工で、2.において行った余盛部分を、図-2, 5の○印のストリップに注意をし、慎重に取り除く。
- 2) 図-5の□印のストリップを、図-6の様に壁面に対して、75°の方向に取り付ける。決して、75°以下にしないこと。

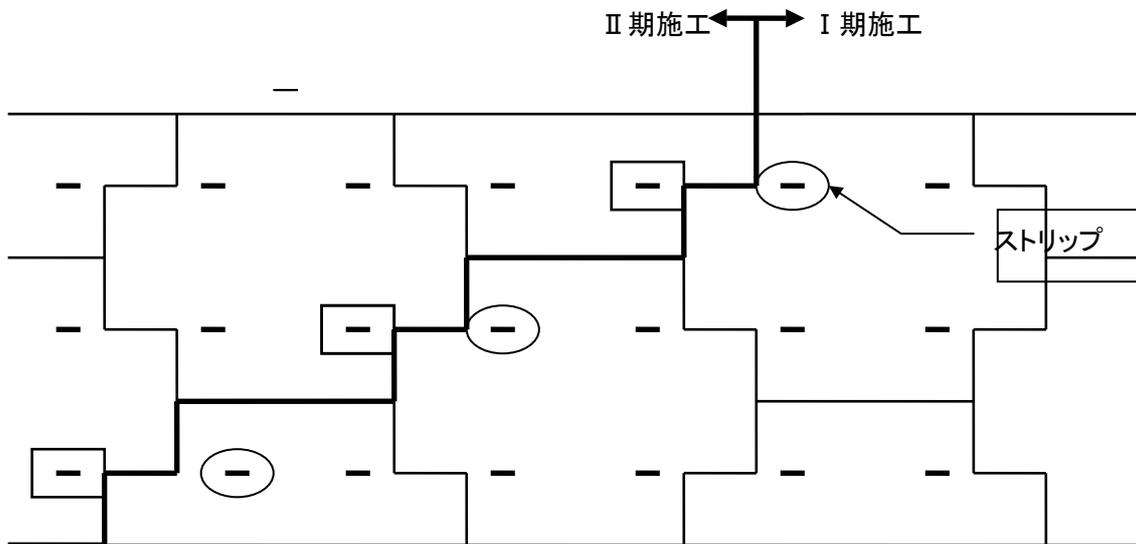


図-5 境界部のストリップ

